

2023年8月期 (2022年9月～2023年8月)

決算説明会

株式会社アドテックプラズマテクノロジー
東証スタンダード
証券コード：6668



2023年8月期連結業績

▶ 連結売上高 124億円（4年連続増収）

- 半導体・液晶関連事業においては、獲得している受注対応のため、部材確保に注力し部材納期遅延を概ね解消し、売上は堅調に推移
- 研究機関・大学関連事業においては、シリコンウエハ引上用装置向け電源の出荷等が安定して行われるとともに一般産業用向け製品の出荷により、売上は堅調に推移

▶ 連結営業利益 22億円（4年ぶりの減益）

- 資源・エネルギー価格の高騰等を受けて製造原価等のコストが上昇したことにより、利益は低調に推移

連結業績概要

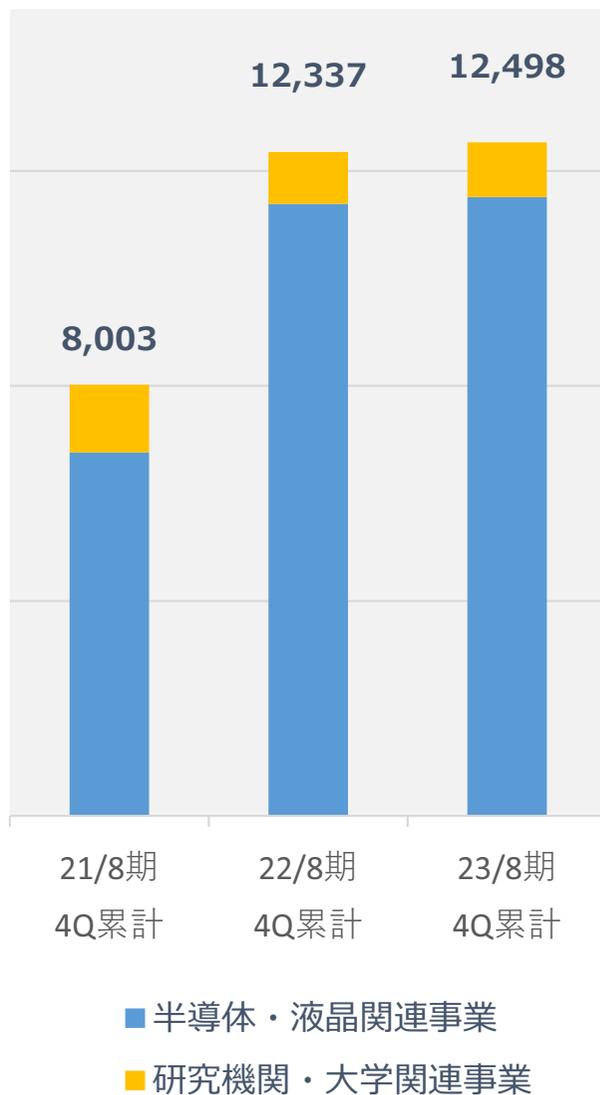
(単位：百万円)	22/8期実績	23/8期実績	前年同期比 (増減率)	予想比	
				23/8期予想	増減 (増減率)
売上高	12,337	12,498	161 (1.3%)	12,400	98 (0.8%)
売上総利益	5,399	5,106	▲ 293 (▲5.4%)	-	-
営業利益	2,735	2,247	▲ 488 (▲17.8%)	1,900	347 (18.3%)
経常利益	3,051	2,293	▲ 758 (▲24.8%)	1,700	593 (34.9%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	2,174	1,678	▲ 496 (▲22.8%)	1,200	478 (39.8%)

連結売上高・営業利益の推移



セグメント別売上高推移

(単位：百万円)

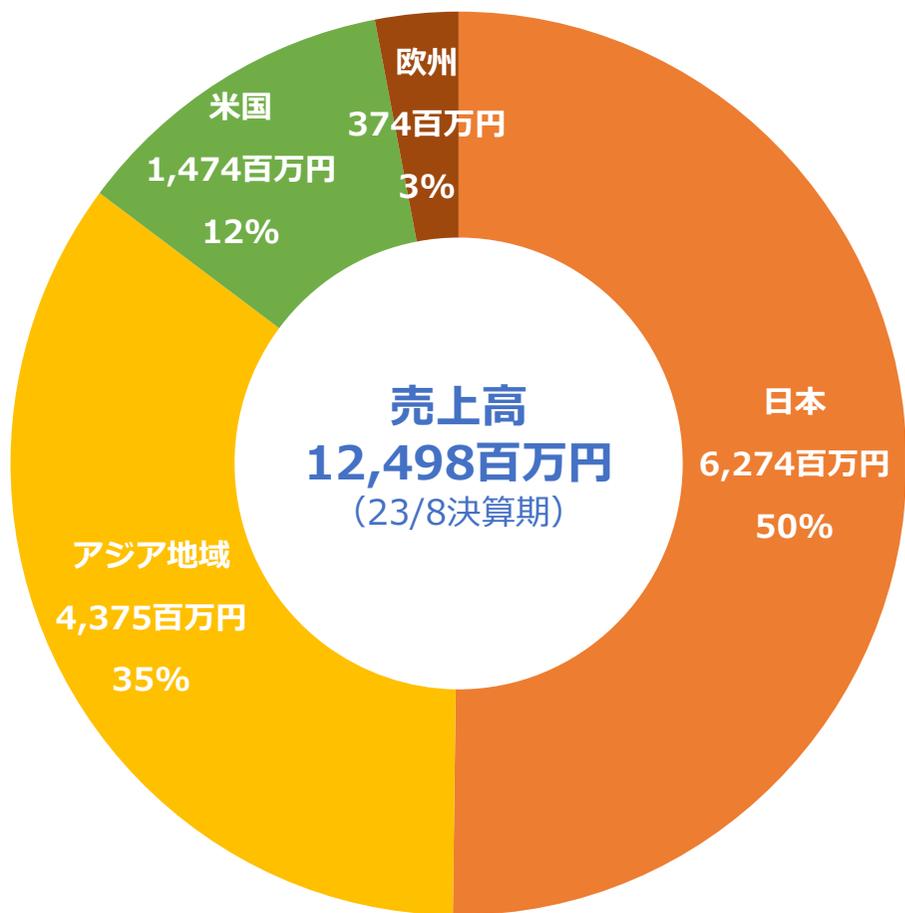


(単位：百万円)		22/8期実績	23/8期実績	前年同期比 (増減率)
半導体・液晶 関連事業	売上高	11,388	11,513	125 (1.1%)
	営業利益	2,623	2,195	▲ 428 (▲16.3%)
研究機関・大 学関連事業	売上高	962	1,019	57 (6.0%)
	営業利益	38	4	▲ 34 (▲88.3%)
連結 損益計算書 計上額	売上高	12,337	12,498	161 (1.3%)
	営業利益	2,735	2,247	▲ 488 (▲17.8%)

※各セグメントの売上高及び営業利益は、セグメント間取引を含む

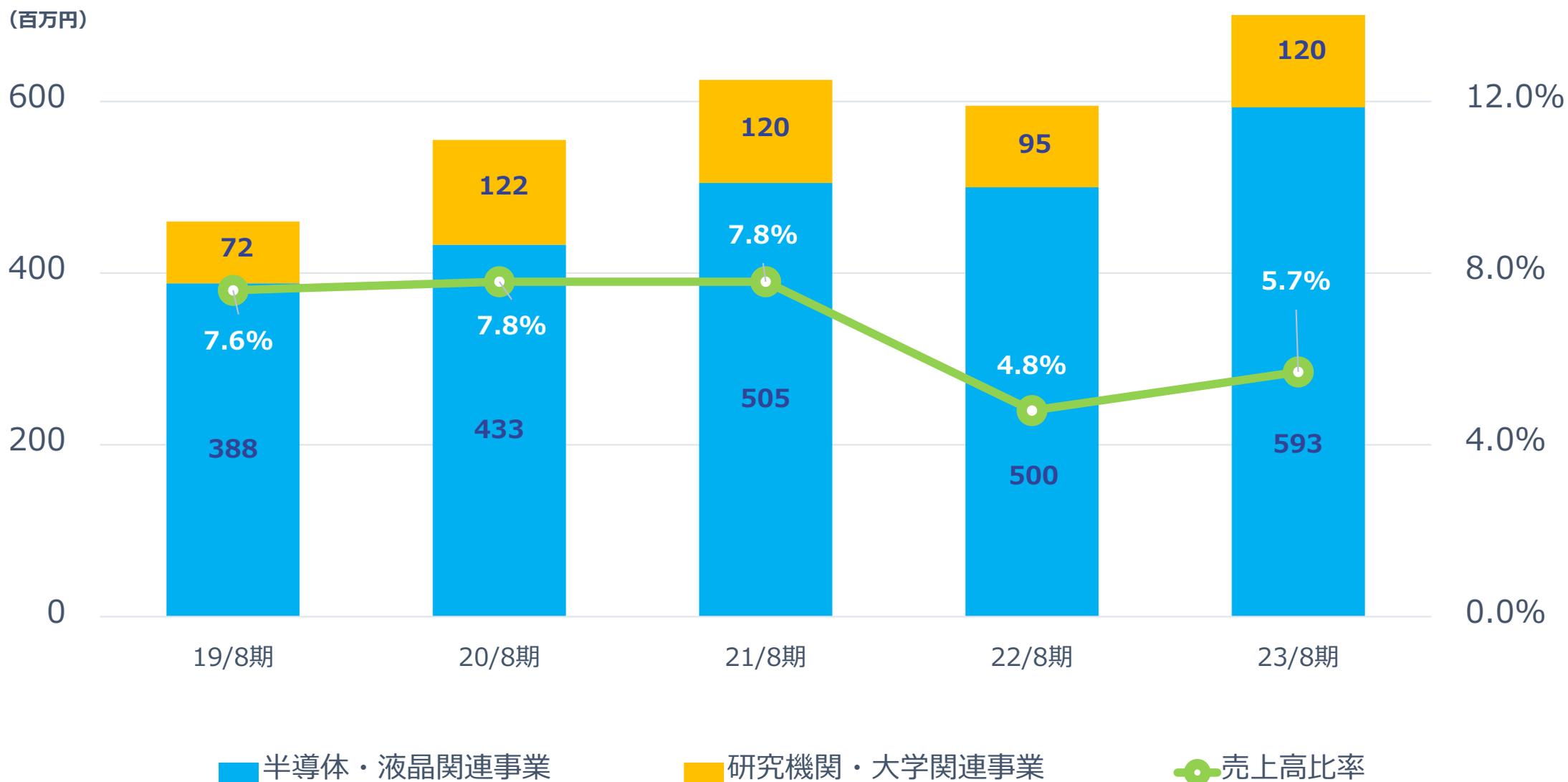
連結地域別売上高

地域別売上高

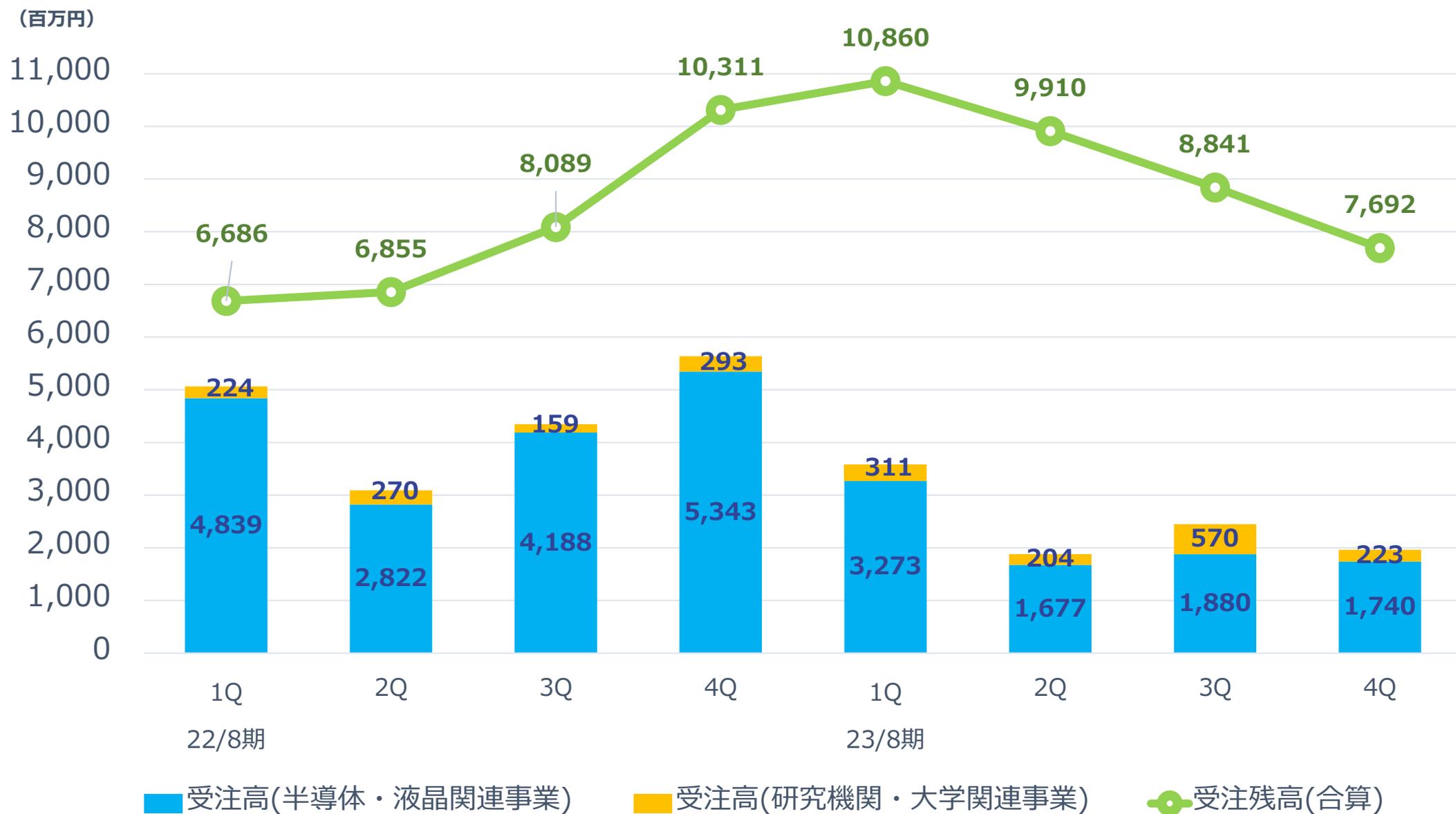


(単位：百万円)	23/8期実績	セグメント別内訳	
		半導体・液晶 関連事業	研究機関・大 学関連事業
■ 日本	6,274	5,272	1,001
■ アジア地域	4,375	4,375	-
■ 米国	1,474	1,474	-
■ 欧州	374	374	-
合計	12,498	11,497	1,001

セグメント別研究開発費推移

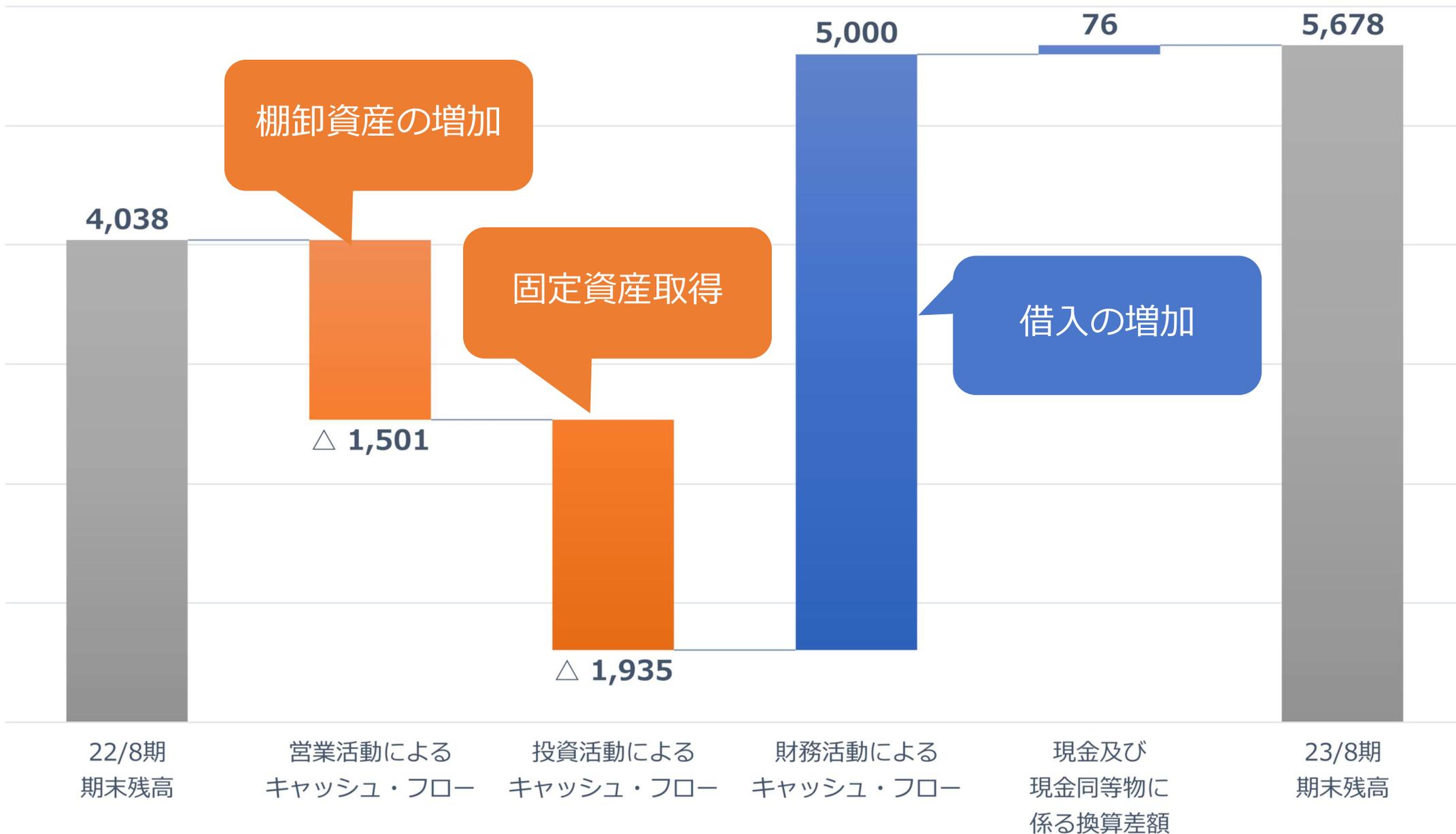


セグメント別受注高・受注残高推移



連結キャッシュ・フロー

(百万円)



2024年8月期 連結業績予想

業界		2023年 (7月~12月)	2024年 (1月~6月)	2024年 (7月~12月)	内容
半導体	メモリ 				スマホ・PC需要の低下、価格の下落、在庫調整により現状低迷。しかし24年後半以降、最新AIサーバーの拡大などから需要拡大が見込める。ENDユーザーもその時期を見込んで設備投資をする方向。
	ロジック 				全ての市場で使用される為、大きく落ち込んではいないが、装置メーカーでは在庫調整が続いている。しかし、最近になりアメリカの装置メーカーなどは在庫調整が終わり、今後に向けての発注段階となっている。
	イメージセンサ 				スマホ・PC需要の低下、価格の下落、在庫調整により現状低迷。しかし24年後半以降、車載向けをメインに需要拡大が見込める。
	車載半導体 				世界的にEVシフトが進み、現状の10倍以上のデバイスは必要になる。世界各社設備投資を継続している状況。今後も拡大傾向。
光学系	スパッタ・蒸着 (有機EL・FPD含む) 				スマホ・カメラ市場が現状在庫調整をしている為、低迷。来年半ばまでは調整段階。来年後半からは在庫調整も終わり、新製品に向けての設備投資が行われる可能性が高い。

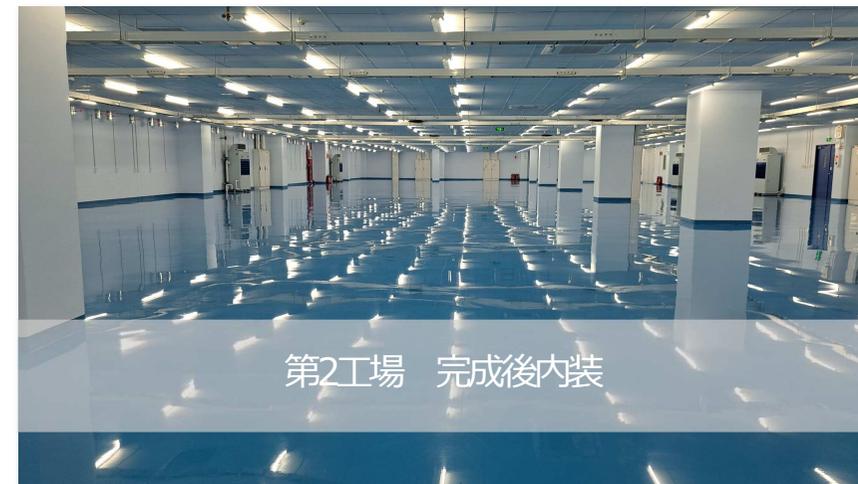
連結業績予想

(単位：百万円)	23/8期 実績	24/8期 予想	増減 (増減率)	備考
売上高	12,498	12,800	302 (2.4%)	【半導体・液晶関連】 △ 現状、世界情勢（ロシア・ウクライナ、イスラエル・パレスチナ、円安等）や、半導体業界動向（需要、中国貿易規制等）が不透明なるも、徐々に半導体メーカーの設備投資の回復と、装置メーカーの在庫調整が進むものと考えており、前期を上回る売上の確保を見込む。 △ 世界中の半導体・液晶・PV・光学関連からの新規開発案件は引き続き増加傾向にあり、現状・今後の対応面を考え、人件費・研究開発費の増加を見込む。 △ ベトナム第2工場・佐野パーツセンターの稼働に伴う減価償却費・諸費用増加を見込むも、下期以降の稼働率の上昇と価格転嫁効果から前期を上回る利益の確保を見込む。
営業利益	2,247	2,430	183 (8.1%)	
経常利益	2,293	2,330	37 (1.6%)	【研究機関・大学関連】 続官新民 ・ 世界全体の民間企業への直流・バイポーラ・マイクロ波電源、受注獲得強化。 ・ 医療、研究機関向け加速器用電源市場の拡充。 ・ 直流電源(バイポーラ含む)ラインナップの拡充。
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,678	1,700	22 (1.3%)	《今後の取り組み》 ・ 主に半導体関連の需要に向けての部材は確保できている為、2024年後半、急速な回復に向けて短納期で対応。 ・ 増加する新規装置案件対応に向けての設計キャパ拡大。 ・ 生産性の向上⇒ADTECグループ全体のシステム構築。作業効率化を図る。 ・ 中国、台湾、韓国、アメリカ、欧州の現地装置メーカーの新規装置案件獲得。売上増を目指す。 ・ ベトナム第2工場稼働。今後の需要拡大に向けての準備。
1株当たり配当金 (年間) (円)	20	20	0	

連結売上高・営業利益の推移（通期）



トピックス



第2工場棟（3階建）15,957m² 駐車場棟 5,876m²
2023年7月31日付 建物の引渡し完了

引き続き、機械設備等の搬入を行うとともに、生産ラインの整備を順次進める



東広島市に寄付

「せとうち半導体共創コンソーシアム」への参画

事業を通じた社会課題の解決とサステナビリティの実現に向けた取り組みとして、企業版ふるさと納税制度を活用し、広島大学の所在する東広島市に寄付を行った。

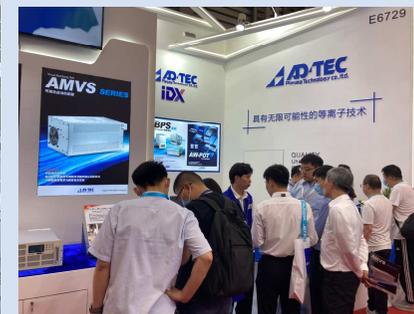
「せとうち半導体共創コンソーシアム」の概要

2023年3月、広島大学ナノデバイス研究所が中心となり、世界最先端の半導体関連研究・開発及び人材育成を目的とした産官学連携組織「せとうち半導体共創コンソーシアム」が設立。

この事業は、国内でも有数のデバイス試作ラインを備えたスーパークリーンルームを持ち、長年にわたって半導体の研究開発及び人材育成に取り組んできた広島大学の強みを活かし、最先端の半導体製造プロセスに貢献する半導体関連企業の技術開発や、革新素材による新デバイスなどの「研究開発」と、半導体業界の将来を担う「中核人材の育成」が行われる。

2023年3月~8月開催 製品展示会

SEMICON China (中国) 2023.6



ISPC25 プラズマ化学国際シンポジウム (日本) 2023.5



欧州の展示会 ※医療装置ステリプラス 2023.3 心臓胸部外科学会(SCTS) 2023.4 国際協会 心臓と肺の移植 2023.5 欧州創傷管理協会

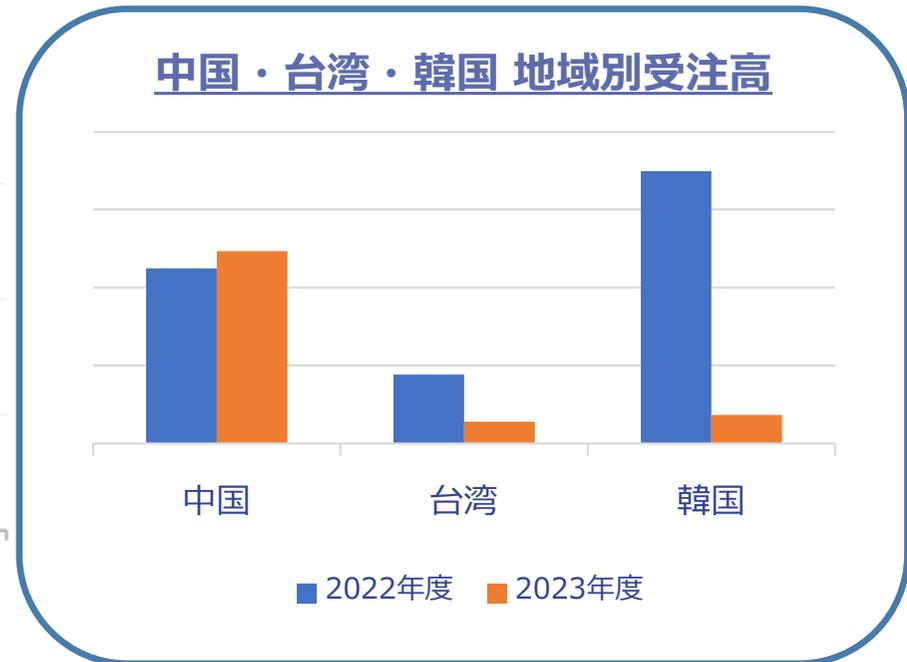


受注高の半期推移

- 2021年9月から2023年8月までの受注額(半期ベース) の推移
- 受注額は、単体ベース

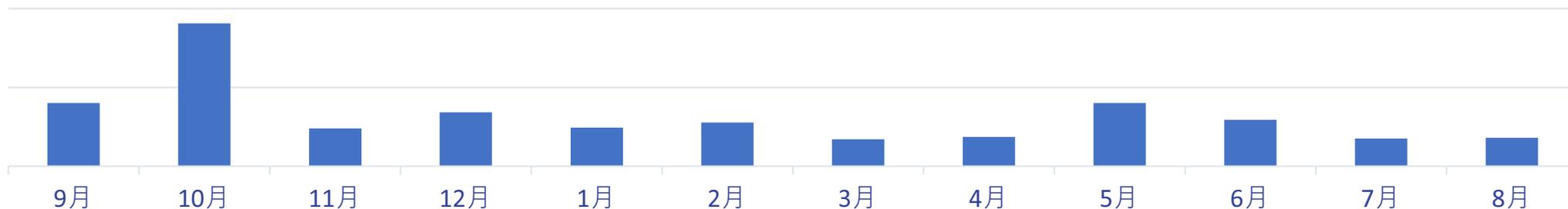


中国・台湾・韓国 地域別受注高



受注高の月別推移

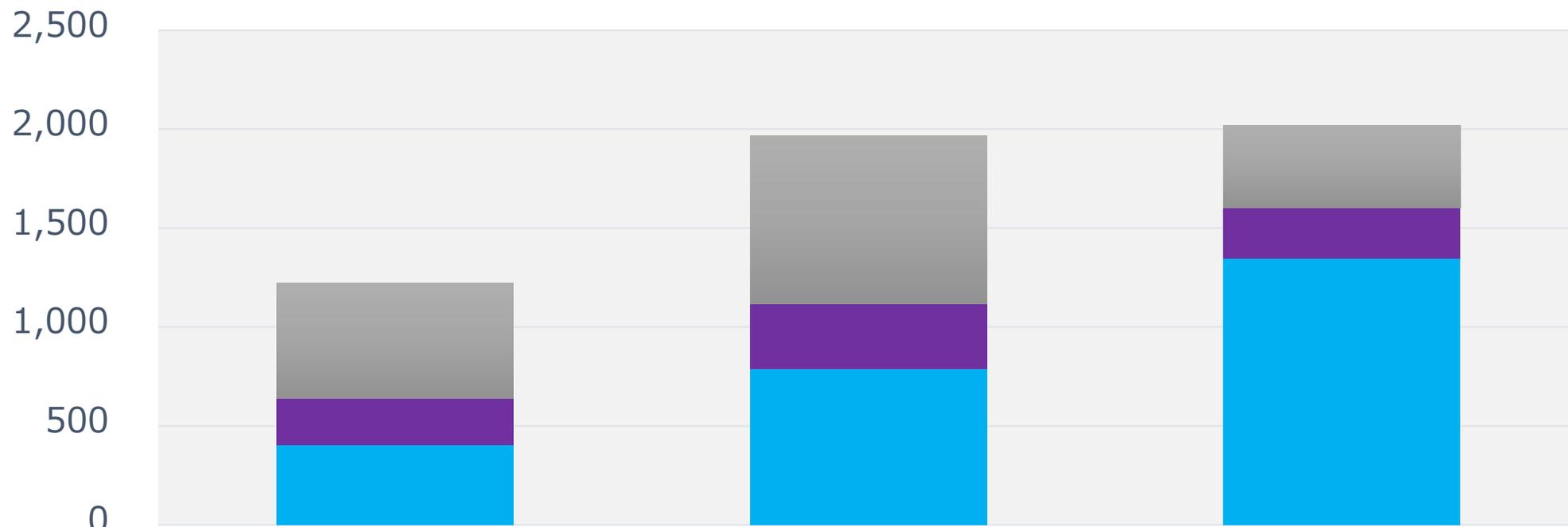
- 2022年9月から2023年8月までの受注額の月別推移



半導体事業 地域別売上高推移

- 地域は、中国・台湾・韓国
- 売上高は、単体ベース

(百万円)



	21/8期	22/8期	23/8期
中国	406	789	1,346
台湾	235	328	256
韓国	583	852	416

生産能力状況 (2023年8月)

グループ生産実績

ベトナム：499台 韓国：91台 佐野他：145台 計735台

グループ最大生産能力

ベトナム：950台 韓国：150台 佐野他：230台 計1,330台

部材調達環境

部材確保に注力したことにより、部材納期遅延を概ね解消することができた。
受注の減少に伴い、実績及び生産最大能力は低調に推移。
ベトナム第二工場建設により、受注が確保出来次第、生産能力は向上する見込み。

生産台数の推移



製品ラインナップ充実の取組

R F G	TXL	430kHz 300W	New
	TXR	13.56MHz 2000W	New
		13.56MHz 20000W	New
	TXH	60MHz 3000W	開発中
	新 TSX	13.56MHz 5000W	開発中
	新	13.56MHz 5000W	開発中
	新 ADS	13.56MHz 5000W	開発中

M U	新 AVM	13.56MHz 5000W	開発中
	AMVS	13.56MHz 20000W	開発中
		2MHz 5000W	New
		40MHz 2000	New
	新 電子MU	13.56MHz 150	開発中
	新 ADM	13.56MHz	開発中
新 製品	プラスマタ外	PLT-200	開発中
	AWホット		評価中

ハイ レ ー 電 源	1000V 25A 10kW	開発中
	1000V 50A 20kW	開発中
	1000V 75A 30kW	開発中
	1000V 30A 10kW	開発中
リ ー ズ D C 3 A	1500V 3A	評価中
	1500V 0.5A	評価中
リ ー ズ D C 5 A	2000V 5A	評価中
	1500V 0.8A	評価中
マイクロ波整合器	2.45GHz 1kW	New
マイクロ波 リット ステ ー ト 合 成 器	2.45GHz 250W×2	開発中
	2.45GHz 250W×4	開発中

新シリーズの概要

R F G	新：高速制御電源
	新TSX：高効率電源
	新ADS：50Ω方向性結合器

M U	新AVM：高速制御電源用
	新電子MU：電子マッチャー
	新ADM：非50Ωインピーダンスセンサ

■ RFG=高周波電源 ■ MU = マッチングユニット

ご参考資料

会社	株式会社アドテック プラズマ テクノロジー
設立年月日	1985年1月
所在地	広島県福山市引野町五丁目6番10号
決算期	8月
資本金	835百万円 (2023年8月末)
代表者	代表取締役社長 森下 秀法
従業員数	連結：483名 (2023年8月末) 単体：177名
セグメント	半導体・液晶関連事業 研究機関・大学関連事業
連結子会社	Adtec Technology, Inc.(米国) Adtec Europe Limited(英国) 株式会社IDX(栃木) ADTEC Plasma Technology Vietnam Co., Ltd.(ベトナム) ADTEC Plasma Technology Korea Co.,Ltd.(韓国) ADTEC Plasma Technology Taiwan Ltd. (台湾) ADTEC Plasma Technology China Ltd.(中国) Adtec Healthcare Limited(英国)

半導体・液晶関連

半導体製造装置内でプラズマを発生させる高周波電源を主力製品とした関連製品の設計、製造、販売、サービスの提供

ユーザー

- 半導体製造装置メーカー
- 光学機器メーカー etc.

主力製品

- 高周波電源 (RFG)
- マッチングユニット (MU)
- 計測機器

会社名

株式会社アドテックプラズマテクノロジー
Adtec Technology, Inc.
Adtec Europe Limited
ADTEC Plasma Technology Vietnam Co., Ltd.
ADTEC Plasma Technology Korea Co., Ltd.
ADTEC Plasma Technology Taiwan Ltd.
ADTEC Plasma Technology China Ltd.
Adtec Healthcare Limited

研究機関・大学関連

医療現場、国の研究機関等において使用される、治療装置や実験施設等の電源装置の設計、製造、販売
半導体・光学分野向け製品の開発

ユーザー

- 国の研究機関
- 大学及び大学病院
- 一般産業 etc.

主力製品

- 粒子加速器電磁石励磁用電源
- 直流電源
- マイクロ波応用機器
- 高電圧電源

会社名

株式会社IDX

アドテックグループの強み

▶顧客目線のきめ細かい技術サービス対応

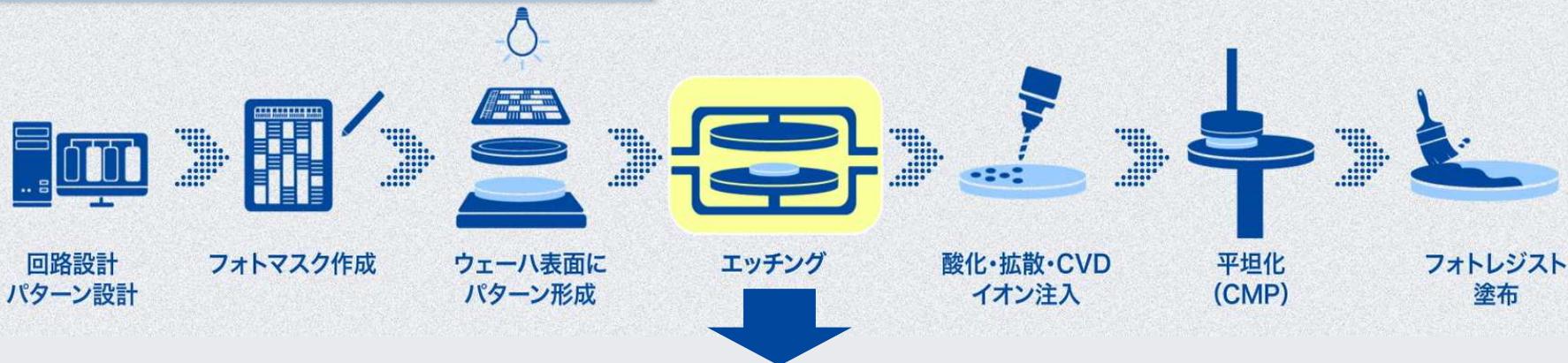
日々進化する半導体製造装置に求められる高周波電源の開発の対応力
電源専門メーカーとして高度化する顧客開発ニーズへ柔軟に対応できる

▶電源に特化した経営を行う事により、電源開発に注力でき、市場を取り込む等の意思決定が早い

周波数の安定性を重視した、高耐久性の製品開発力
高周波電源の他、小型DC電源から大型キッカー電源、マイクロ波製品など多くのバリエーションを扱える

RFG・MUの使用工程例

(シリコンウエハー上に作られるICチップの前工程)

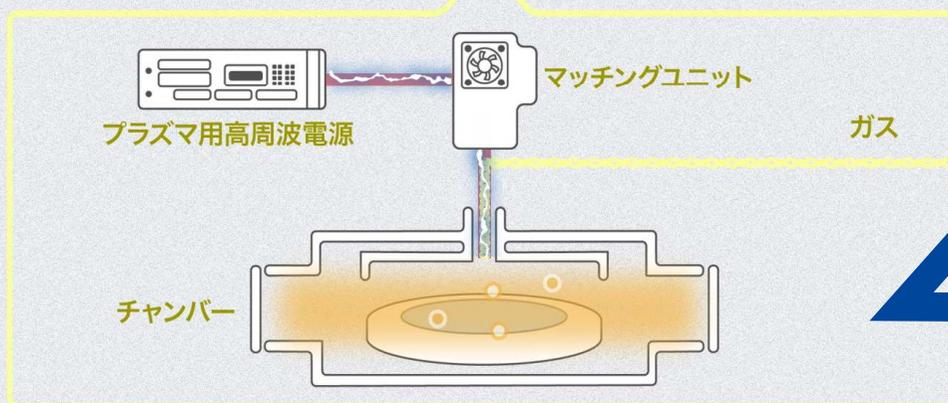


安定性
Stability



耐久性
Durability

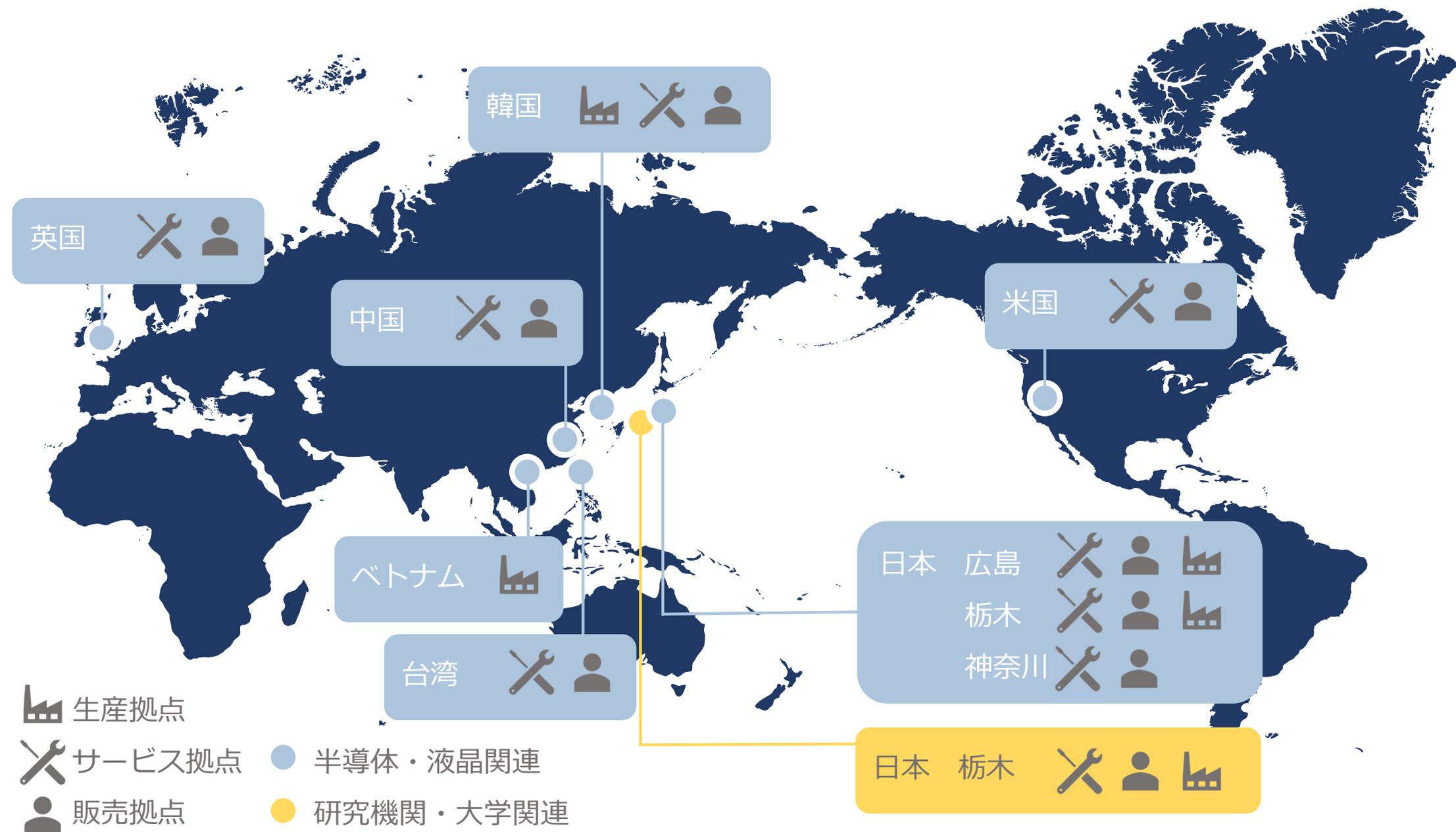
ドライプラズマ
プロセス



求められるのは
安定性と耐久性
に優れた
高性能な高周波電源

ICチップの性能を左右する重要なプロセスでは、
チャンバー内を常に**安定したプラズマ状態**にする必要がある

- プラズマ高周波電源 = RFG
- マッチングユニット = MU



ご清聴ありがとうございました。

■ 将来見通しに係る記述についての注意事項

本資料に記載した業績予想等の将来に関する記述は、現時点で得られた情報に基づいて当社が判断したものであり、様々な不確定要因を含んでおります。

従いまして、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があります。